

JPCERT/CC（コンピュータ緊急対応センター）

インターネットは、学術ネットワークから世界規模の情報基盤へと発展を続けている。日本国内でも大学や政府・民間研究機関から、一般企業、政府・地方自治体、さらには一般家庭へと急速な広がりを見せている。

その一方で、インターネットに接続されたコンピュータシステムに不正にアクセスする侵入者（イントルーダー）・攻撃者（アタッカー、クラッカー）も現実には存在する。その目的は、興味本位の「悪戯」、企業情報を盗む産業スパイなど幅広く、実際の行動も単に侵入するだけのものから、システムファイルを破壊する悪質なものでさまざまである。

インターネットにおけるセキュリティ対策は、その広域性と開放性から、業務システムのセキュリティ対策やコンピュータウイルス対策などとは異なる独自の対応が必要である。また不正アクセスは、システムの弱点を利用したり他組織を経由するなど複雑化しており、関係する組織との協調に基づく対応が不可欠となる。

さらに、インターネットには馴染みの薄いエンドユーザーや組織の利用が急増しており、このまま放置すれば無防備なユーザーの被害が急激に増大すると予測される。また、侵入手口も高度化しているため、専門家が運用管理しているインターネット接続組織においても必ずしも楽観視できる状況ではない。

一方、不正アクセスに適切に対処するためには、被害を受けた当事者やサービスプロバイダー、コンピュータメーカーなどが積極的に協調して活動することが不可欠であるが、情報交換のための手段が用意されていない状態では、各組織が手探りで情報や不正アクセスの伝達経路を見つけなければならない。また情報の中には、プライバシーや組織の機密に関わるものもあるため、信頼できる第三者機関による調整が必要となる。

JPCERT/CCは、インターネットを経由して行われるコンピュータ・システムへの不正アクセスのうち、その影響が広範囲に及びかつ重大な影響を及ぼす可能性があるケースについて、不正アクセスを受けた方から提供していただいた情報に基づく被害状況の把握と侵入手口の解明、関連する技術情報の提供といった活動を通じて、不正アクセスの再発防止や予防を技術的な側面から支援することを目指している。

また、インターネットセキュリティに関する技術情報の収集・分析、不正アクセス防止策の検討、緊急時の連絡網の整備、セキュリティ技術の普及・啓発活動、海外の関連機関との情報交換および緊急時の連携等を行う予定である。

ただし、犯人・証拠の捜査や損害賠償請求などの法律問題に関連する支援、パソコンやワープロなどのヘルプデスク的な操作支援、個別のシステムに関するコンサルティング業務などは行っていない。

（コンピュータ緊急対応センター）

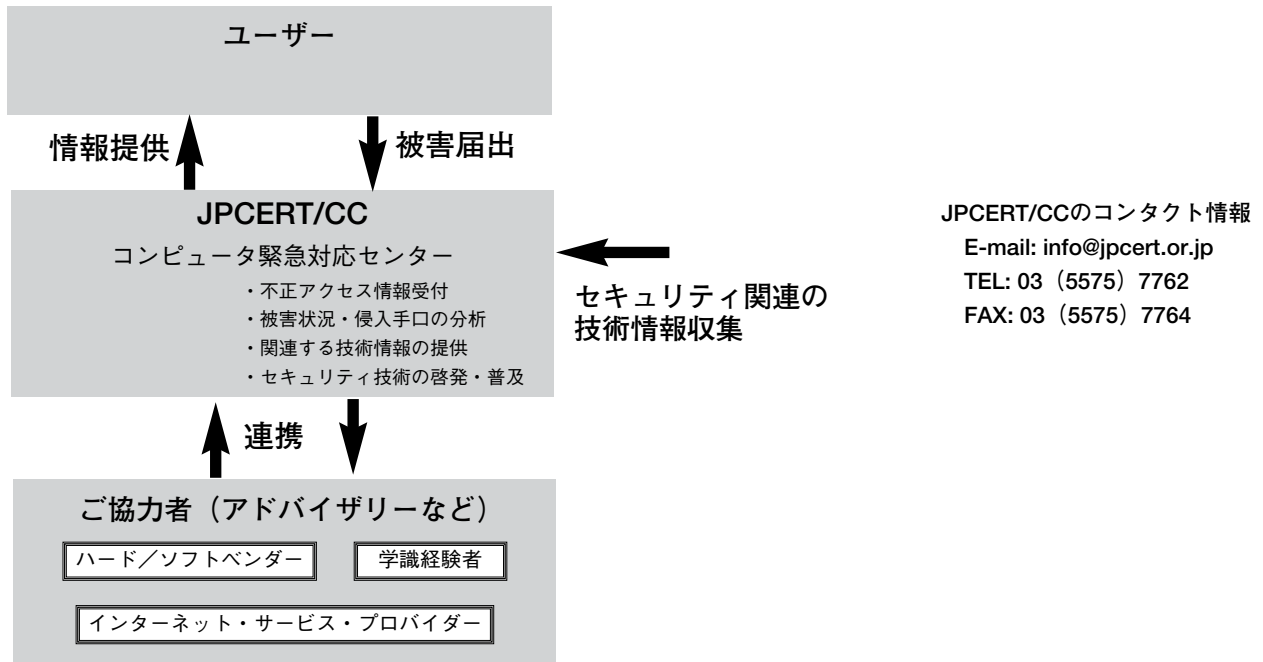


図1 JPCERT/CCの業務フロー

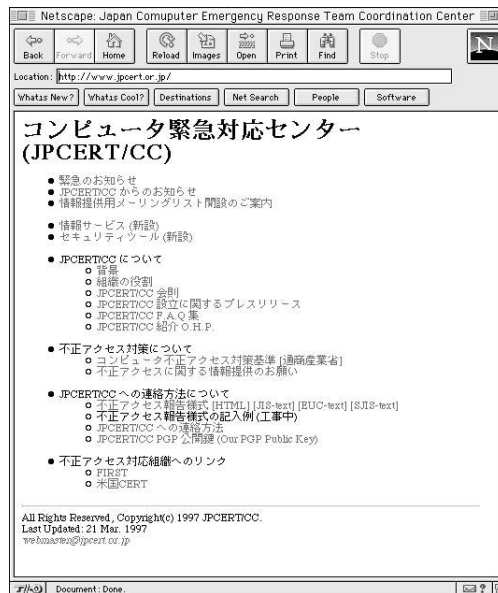


図2 JPCERT/CCのホームページ
http://www.jpcert.or.jp/



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp